



みどりの風



令和6年11月25日発行

文化の香り漂う素晴らしい教育活動を堪能 ～「文化祭」～

校長 安藤晋哉

11月1日、今年の文化祭テーマ「シゲトミクエスト夢と希望の大冒険」に、どっぷり浸ることができました。これまでの各教科や総合的な学習の時間、部活動などで取り組んできた作品を全校生徒や保護者の皆さんに披露しました。

展示部門は、モザイクアートを代表するように一人一人の力が結集されたもの、個人のテーマに基づいて調査研究したもの、日常生活で自分ができることを実生活で実践したもの、美術部の素晴らしい絵画など、変化に富んだ作品が会場いっぱいにならんでいました。これだけの作品が並ぶと文化の香り漂う会場はとても気持ちがいいものでした。

また、体育館でのステージ発表部門では、生徒会役員制作のオープニングムービーに続き、2年の東 玄樹さんと3年の古賀琴羽さんの英語暗唱がありました。次週に行われる地区大会のプレ発表ということもあり、堂々とした様子で頼もしいでした。その他にも会場を元気付ける吹奏楽部の演奏もありました。

メインは、各学年の構成劇です。どの学年の作品もメッセージがあり、質の高い作品でした。以下は私の感想です。

1年生は、総合的な学習の時間のテーマ「地域を繋ぐ」から重富海岸の保全に注目した発表でした。まず、国分高校生から探究学習の進め方で学んだことを生かして、重富海岸や錦江湾に関する調べ学習の内容を披露し、構成劇は浦島太郎の物語をモチーフにした構成劇でした。今、問題となっているマイクロプラスチックなどの人工物のゴミ問題に焦点を当て、私たちの生活の在り方や未来の地球環境を守るために、どのような行動をすべきか提案する良い作品だったと思います。合唱やダンス、演技、プレゼンテーションどれも洗練とした発表で興味深いものでした。

2年生は、これまでの教科や平和学習等で学んだことを生かし、「命の大切さ」をテーマに作られた構成劇でした。調べ学習の成果発表、クイズにはじまり、劇の途中で創作ダンスや演技があり、メリハリのあるとてもいい発表でした。構成劇では7人の息子を戦争に送り、自分の植えた木の葉っぱを自分の息子に見立て、息子一人一人の無事と、元気に帰還することを祈る母の姿は胸を打たれました。母は我が子の帰還を待ち続けながらも、唯一帰還した息子「らいき」との再会は果たせず生涯を閉じる。70年の月日が経過し、孫との平穏な生活を過ごす「らいき」は、帰還した後、植えたクルミの実を孫と一緒に収穫しながら、当時を思い出し、「戦争の悲惨さ、平和の祈願」を訴えたシーンは胸にぐっときました。バックに流れる「平和の鐘」の歌。私には平和の鐘が胸にしっかり響きました。

3年生は、全員による力作でした。創作劇の中では、映像効果、創作ダンス、合唱等が散りばめられ、親近感があり、説得力のあるものでした。最後の文化祭を彩り、大きな感動を与えてくれました。

劇の本編は、昨年度、披露した「あの花が咲く丘で君とまた出会えたら」の続編「あの星が降る丘で、君とまた出会いたい」でした。主人公の百合は、学校生活や人間関係、受験生としての生活に悶々とした日々を過ごしていた。そこに、転校生「りょう」が現れる。「りょう」はタイムスリップして出会った特攻生「アキラ」と共通点を感じ、生まれ変わりではないかと思う。百合はりょうが夢を諦めて進路決定する姿に、本気で意見する。戦争時代の若者の心情を想像すると、現代の若者が「夢をもち、それに向かって生活できることはどんなに貴重なものか」「そのように生きていくこと自体、“奇跡”である。だから、自分の夢は大事にしていくべきだ」と強く訴える。その通り、夢に向かって生きていくことは幸せなことです。

世界にはそのような生き方ができない人がどれほどいるか。私たちは自分の生き方を選択できる今の環境に感謝しつつ、夢や志をもち、その実現に向けて挑戦し続けていくべきであると改めて考えさせられました。

